



初めて買ったレコードはカール・ベーム指揮ベルリン・フィルによるモーツァルト

「モーツァルト」

北海道大学 名誉教授
岸 道郎



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第4回は、東京フィルの個人賛助会員(パートナー会員)としてご寄附くださっている岸 道郎様。北海道大学水産学部教授の任を終えた2013年から(現在は同・名誉教授)東京フィルへのご寄附を続けてくださっています。高校生時代クラシック音楽に目覚め、モーツァルトに傾倒していかれたお話から、海洋学者ならではの意外な音楽体験まで……幅広く綴っていただきました。

高校生のとき、風邪で寝込んでいてラジオを聞いていました。ハイドンとモーツァルトの聞き比べをしていました。その日までは「ピアノを習っていたくせに?!」、クラシック音楽には全く興味がなかったのです。ラジオで曲を聴いているうちに、ハイドンとモーツァルトをすぐに聞き分けられるようになりました。で、その日をきっかけにモーツァルトが大好きになり、最初買ったレコードは交響曲40、41番。これすらレコードを買うまで聴いたことがなかったのです。でも、これをきっかけにモーツァルトの交響曲やピアノ協奏曲のレコードを買いまくりました。

定年退職したのを機に、2014年から「あこがれていた」ザルツブルク音楽祭に行っています。これも、行くまでモーツァルト以外のオペラがあんなに沢山上演されるのを知りませんでした(こんな私がここに文章を書かせていただいてよいのでしょうか?)。モーツァルトのオペラで印象に残っているのは2018年の『魔笛』の演出です。レチタティーヴォのところでは、語り部(クラウス・マリア・

ブランダウアー/Klaus Maria Brandauer。有名な俳優らしいですね)が、子供達に物語を話しかける演出(リディア・シュタイアー/Lydia Steier)でした。ザルツブルク、去年は行けませんでしたけど今年はどうでしょう。この文章を書いている5月末現在、オーストリアは観光客を受け入れていません。チケットは買ってしまったのですが……。

もうひとつ、札幌から実家のある東京へ戻ってきました。札幌はプロのオーケストラはひとつしかないのですが、東京には山のようにあります。東京フィルに寄附をするきっかけは、新国立劇場のオペラですね。東京フィルと新国立劇場と両方に寄附をするようになりました。



2018年8月ザルツブルクにて

閑話休題：私は海洋学を専攻していましたが、船酔いをするので「有名」でした。そこで、海の音楽、例えばドビュッシーの「交響詩《海》」、イベールの「海の交響曲」、ブリテンの「4つの海の間奏曲」などを聴くと船酔い気分になってしまうので、あまり好きな曲ではないのです。もっとも船酔いを印象づけるような「名曲」なのでしょうね。海に関連する題名のついているクラシック音楽は意外と少ないです(メンデルスゾーン：序曲「静かな海と楽しい航海」は船の曲だと思っています)。作曲家が内陸部に住んでいる人が多かったせいでしょうか? ところで、天文学者はホルストの「惑星」やヨゼフ・シュトラウスの「天体の音楽」はお好きなのでしょうか?



1905年に出版されたドビュッシーの交響詩『海』初版スコアの表紙。葛飾北斎の浮世絵『富嶽三十六景』のひとつ「神奈川沖浪裏」にインスピレーションを得て生まれたとも言われます。荒れ狂う海の描写は船酔いする海洋学者には刺激が強すぎる?

岸道郎(きし・みちお)

1949年東京生まれ、1978年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。1983年農学博士(東京大学)取得。東京大学海洋研究所助手、北海道大学水産学部教授など歴任。2013年～北海道大学名誉教授。日本海洋学会賞、水産海洋学会宇田賞など受賞。